

製鉄文化継承へ涼音

大ホッパの会「たたら風鈴」製作

一関市大東町のボランティア団体ホッパの会(勝部昌平会長)は、たたら製鉄で精製した鉄を使った「たたら風鈴」を製作した。活動20周年、一関文化賞受賞(2019年11月)、岩手日文化賞受賞(2月)を記念して会員に配布し、たたら製鉄文化の顕彰と継承を誓った。

ホッパの会は、同町内野地区で受け継がれてきた製鉄の文化を継承しようと、1999年に結成。地元の大原小学校児童と共に、毎

年砂鉄の採取やたたら炉の製作、たたら製鉄の実施などに取り組んでいる。たたら風鈴は高さと横幅が約4・5センチ、重量約10

0グラムで、南部鉄器製品を手掛けている及源铸造(奥州市)が製造。大原小児童の卒業記念品制作を、2018年から手掛けている縁で実現した。

会員へのお披露目は12日、同市大東町大原の砂鉄川たたら製鉄学習館で行われた。会員20人が早朝から周辺の環境整備作業を行い、新型コロナウイルスの影響で延期していた20年度総会を実施。会員物故者の

慰霊祈禱、各文化賞の受賞報告が行われ、各会員に1つずつ配布された。

新型コロナウイルスの影響で中止も検討されているが、今年度も大原小児童と共にたたら製鉄を実施する予定。勝部会長(左)は「音でたたら製鉄を思い出せる、良い風鈴ができた。今後も地域の文化を子供らに伝えていくために、じっくりと取り組んでいきたい」と展望を語っていた。



ホッパの会が活動20周年や一関文化賞受賞などを記念して製作したたたら風鈴